

結核部会の概要

令和7年7月24日開催

【議題】結核患者を支える地域の体制づくりについて

- 結核患者の在宅療養を支える地域体制の整備について、多職種連携の重要性を共有するとともに、意見交換を行った。
- 高齢者福祉施設をはじめとする地域の支援関係者には、結核に関する知識が十分でない状況があるため、知識啓発の強化が必要。

(委員意見)

- 高齢者福祉施設が結核患者退院後の受け皿となるには、各施設の主治医、もしくは施設長自身が結核に対する知識をしっかりと持ち、対応できる体制づくりが急務である。
- 介護事業所や訪問看護などの患者の生活を支える関係者に適切な感染対策の知識があれば、感染拡大を防止できる。また結核の治療について、正しく認識できれば、退院後に地域で結核患者を受け入れる体制づくりにもつながる。
- 引き続き、関係機関と連携し、患者中心の医療につなげていく。

結核患者を支える地域の体制づくり

資料4

本日、ご議論いただきたいこと

1. 結核患者（在宅）を支える地域の体制づくりにおいては、多職種連携が重要。

※通院困難な患者や退院困難ケース等においては特に多職種連携が重要になる

- ✓ 各機関・団体において、どのような取組ができるか(どのような役割を担えるか)
- ✓ 各機関・団体において、どのような連携（役割分担）ができるのか

2. 県において、高齢者施設に対して啓発を重点的に実施する予定。

※高齢者施設は、高齢の結核患者の退院先の一つとなっている

※高齢者施設で働く外国出生者も多いため、外国出生者への啓発にもつながる

- ✓ 各機関・団体において、高齢者施設に対する啓発について、どのような取組（研修会等）ができるか

〈県の取組〉

- 保健所において、高齢者施設等の職員に対する研修会を実施
- 特に、結核・呼吸器感染症予防週間（9月24日～9月30日）に合わせ、重点的に啓発
- 結核に関する啓発物品を作成し、高齢者施設に配布
- 県介護部局と連携し、啓発メールを一斉送信

3. R7年度奈良県・奈良市結核コホート検討会では、近年課題となっている「外国出生の結核患者」をテーマとする予定。来年度の部会では、検討会での議論をさらに深める形で、意見交換したい。

- ✓ 来年度の議題について、それ以外に何かご提案はあるか

令和7年度第1回奈良県感染症対策連携協議会結核部会資料(一部抜粋)

奈良県老人福祉施設協議会施設長連絡会議 特別養護老人ホーム部会研修会

日 時：令和7年12月17日 15時30分～16時30分

対象者：高齢者施設(入所・通所)施設長や管理者（72施設、75人）

講 師：奈良医療センター 副院長 玉置 伸二先生

内 容：結核に対する基礎知識、結核の現状、施設内感染対策、結核患者を支える地域資源としての役割について